

令和8年度～令和17年度  
さとうきび増産に向けた取組目標及び取組計画（3期）

# 多良間島

策定主体：多良間島さとうきび増産プロジェクト会議

## 地域において目指す姿

・本地域では、村内の高齢化及び担い手不足が深刻であるため機械化一貫体系を推進している。特に、労働力が必要な新植面積割合が減少傾向にあり、株出し面積割合が増加傾向にあるため、今後の単収及び生産量の減少が懸念される。そのため次期計画でビレットプランタ等の作付機械の導入を推進することで、労働力不足による新植面積割合を維持しつつ、適期株出し管理技術の向上による単収の増により安定した生産体制を目指す。

本地域は他地域に比べ夏植え面積割合が多く、豊作時には小型ハーベスタでの収穫が困難なケースも多いためハーベスタの大型化を視野に入れ今後の導入を検討し、機械化体系を支えるためにオペレータの育成・確保を行い、維持・強化を目指す。

・多良間村では、生活用水を地下水に依存しているが、県が実施した地下水質調査により化学肥料の過剰な施用による汚染が発覚した。これを契機に地下水質保全のため「島ごとエコファーマー」に取り組み、化学農薬及び化学肥料の使用量低減を図ってきた。平成26年にエコファーマー認定を受け、R6年に県内初のエコファーマー団体認定を受けている。今後も継続してエコファーマーへの取り組みを推進し、持続的な環境にやさしいさとうきび生産に取り組んでいく。

・優良品種（株出萌芽性、黒穂病抵抗性、機械植付・収穫適応性）の導入と普及、品種の分散による黒穂病及び自然災害のリスク軽減を推進する。また、地域に適応した安定多収品種の普及を図り、生産性や品質の向上を目指す。

・多良間村は水源に乏しい地域であり、干ばつ等の自然災害による被害を受けやすい状況にあるため、農業用水の確保や防風・防潮林などの生産基盤の整備を進める。

・土づくりにおいては、村内製造堆肥及び緑肥を活用した土づくりを推進し、地域資源を有効活用したさとうきび安定生産を実現する。

これらの取り組みを通じて、さとうきび生産の持続可能性を高めることを目指す。

増産計画目標

(1) 生産目標

	収穫面積 (ha)				単収 (t/10a)				生産量 (t)				
	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	
R6年産策定時	232	7	121	361	9.3	5.1	6.0	8.1	21,637	376	7,360	29,373	
R8年産	目標	200	6	125	331	8.5	5.2	5.5	7.3	17,000	312	6,875	24,187
R9年産	目標	195	16	120	331	8.5	5.2	5.7	7.3	16,575	832	6,840	24,247
R10年産	目標	185	26	120	331	8.5	5.5	6	7.4	15,725	1,430	7,200	24,355
R17年産	目標	160	36	135	331	8.7	6	6.6	7.5	13,920	2,160	8,910	24,990

(2) 担い手育成目標

	区分			
	認定農業者	受託組織	大規模生産農家	
R6年度策定時	11	2	-	
R8年度	目標	12	3	-
R9年度	目標	14	3	-
R10年度	目標	16	3	-
R17年度	目標	21	5	-

(3) エコファーマーに即した取り組み目標

	土壌分析戸数	堆肥散布面積	緑肥活用面積	緩効性肥料活用面積	
R6年度策定時	225戸	41ha	16ha	2.3ha	
R8年度	目標	225戸	45ha	19ha	2.4ha
R9年度	目標	225戸	50ha	22ha	2.5ha
R10年度	目標	225戸	55ha	25ha	2.6ha
R17年度	目標	225戸	100ha	50ha	3.3ha

#### (4) 分析と評価

##### ① 2期計画で挙げた課題

○機械化一貫体系確立に伴う作業の競合、受託組織の整備 ○兼業率の高さと高齢化 ○単収向上による生産コストの低減 ○高齢化、離農、負担過重感等のため共済加入意識が低い ○補償方法への不満 ○畑地かんがい施設の未整備、ため池及び集水路等の整備不足による水源の不足  
○土壌害虫の防除体制の確立 ○発生予察による関係機関が連携した早急防除体制の確立 ○適応性品種の選定に係る取組み  
○健全無病苗に対する農家意識が不十分  
○株出栽培が一定面積増えたが、それにより管理作業が追いつかず、株出の単収が低下した  
○島ごとエコファーマーへの認定に伴い、農薬・化学肥料の3割減を目標としている  
○削減した肥料不足を補いさとうきびの育成増進のため、堆肥・緑肥の利用推進

##### ② ①で挙げた課題に対して解決に向け取り組んだ内容

○堆肥投入に対する助成、緑肥種子の補助 ○可動式誘殺灯によるアオドウガネの防除、ベイト剤によるハリガネムシ、アオドウガネの防除  
○環境負荷低減のための活動に則した肥培管理を推進 ○品種の偏り、黒穂病対策として抵抗性の高い優良品種の導入を行った  
○補助金を活用して、ほ場への堆肥及び緑肥の利用推進を図った

##### ③ ①で挙げた課題のうち②により解決した課題

○島ごとエコファーマー認定への取り組みにより、農薬・化学肥料の3割減が達成され、県内初のエコファーマー団体認定を受けた。

##### ④ ①で挙げた課題のうち解決できなかった課題とその要因

○高齢化による担い手不足 ○受託組織の整備  
○堆肥投入や緑肥による地力向上  
○Ni27が大半を占めるため、品種の偏りによる黒穂病の蔓延

⑤ 新たに生じた課題

○ビレットプランタ及び老朽化に伴うハーベスタの新規導入による労働負担の軽減  
○収穫機械の老朽化による作業能力の低下 ○株出面積増加に伴う、土壌害虫の増加 ○除草作業に係るコストと労働力

⑥ 令和17年産目標に向けた現状評価及び見通し

令和5/6年度のさとうきび生産量は、29,373トﾝで昨年の19,735トﾝと比較すると約10,000トﾝ増産となった。

要因として、さとうきびの生育旺盛期にあたる6月下旬～7月中旬にかけて干ばつ気味な気候であったものの、その他の栽培期間中は十分な降雨があったため、夏植え株出しともに生育が良好で、生産量の増に繋がった。5月～6月に黒穂病が株出しを中心に発生したものの、今期は株出し面積割合が少なかったため、大きな減収とならなかった。黒穂病により更新したほ場も見られた。

近年は、農家の高齢化が進み労働力不足が原因となり夏植面積の割合が減少している。

新たに収穫機械及びビレットプランター等の植付機械を導入し、労働力不足の軽減、苗用ほ場からの健全苗確保、品種構成の適正化によりさとうきびの安定的、持続的な生産を図る必要がある。

(5) 地域重点事項（地域独自で取り組んでいる重点事項を記載）

○品種の偏りや、採苗方法などが課題で黒穂病が多良間村内全域で発生・まん延していることから、優良種苗事業等の各種事業を有効に活用し、黒穂病への耐病性品種を導入することで、品種構成の適正化を図ることで黒穂病の発生・まん延を防止する  
○引き続き、島ごとエコファーマー認定の取組に準じて、化学肥料及び農薬の3割減を目指すため、多良間村堆肥製造施設の堆肥・緑肥を活用した土づくりを促進し、環境に配慮したさとうきび栽培を推進する

(6) 以下の項目のうち重要（特に議論すべき）と考える項目を3つ程度選択して✓を入れて下さい。

**1 経営基盤の強化**

- 農地の利用集積、効率的なさとうきび経営の育成と労働力の確保
- 農業共済制度への加入促進

**2 生産基盤の強化**

- 気象災害に強い生産基盤の整備
- 機械化一貫体系の確立
- 地力の増進

**3 技術対策**

- 病虫害防除
- 台風・干ばつ対策
- 優良品種の選択・普及

**4 その他（自由記述）**


※✓した項目については、OPの「～～」を作成する

## 目標達成に向けた取組計画

### Ⅰ 経営基盤の強化

#### ① 農地の利用集積、効率的なさとうきび経営の育成と労働力の確保

##### 【現状】

○さとうきび生産にかかる認定農業者は、平成27年の計画時で30人の目標値としているが、令和6年の実績では、計画時の実績と横ばいの11人となっている。生産法人は目標値の1人から増となる2人となった。今後は、作業受委託組織の設立及び育成の推進を図る必要がある。

○さとうきび農家の年齢は、年々高齢化による担い手不足が増加している。近年の年齢別農家戸数において、全体の65%を占めているのは60歳以上の154戸で、続いて22.6%で50代の53戸となっている。20歳～40歳は合わせても、全体の11.5%となる27戸で、そのうち20歳においては対象者0人となっており高齢化が進行している。

##### 〈担い手育成目標〉

	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
認定農業者	12	12	18	20	25	32	33	16	24	11
農業法人	-	-	-	-	-	-	2	1	5	2
委託組織等	1	1	1	1	1	1	1	1	2	0

**【課題】**

- 兼業率が高く高齢化も進んでおり、機械化による更なる省力化を図るため作業受委託体制の構築が急務
- 再認定を受けない認定農業者が多い ○農業法人の育成及び設立 ○農業法人への機械導入支援
- 地域計画の現状に合わせた更新 ○農家個々の経営力資質向上を促す必要がある

**【課題に対応した取組及びその実施者】**

- 中核的なさとうきび担い手の確保のため認定農業者の育成及び申請支援（沖縄県、多良間村、JA）
- 認定農業者制度及び農業経営に関する講習会の実施（沖縄県、多良間村）
- 新規就農者への経営講習会の開催（沖縄県、多良間村）

**【計画】**

＜短期計画＞ ※今年度か来年度頃に実施する予定の取組を記載

- 新規就農者へ講習会を実施することで、認定取得への理解を深めてもらい、認定農業者を増やす
- 認定切れの農家が複数いる事から、再認定取得に向けての周知を図り、関係機関と連携し、経営力資質向上を図るべく講習会の開催を検討する

＜中・長期的な計画＞ ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

- 受委託可能な組織体制の設立及び育成を支援し、高齢化が進み夏植に係る労働力不足の軽減に向けビレッドプランタやスマート農業機械等の新規機械導入による作業の省力化を図る。
- 老朽化が進むハーベスタの長寿命化、新規導入を視野に入れ安定的な収穫体制の構築を図る。
- 令和7年3月に策定した地域計画に基づき、農地中間管理機構等を活用した農地集積を進め、地域計画の更新を進め、さとうきびの担い手の育成・確保を図る。

**【自由記述欄】※例）国補正事業（生産対策）のメニュー拡充のアイデア、要望等**

- 高齢化や担い手不足による労働力不足解消のため、援農隊等の地域外からの労働力確保を目的とした補助メニューを要望する

## 目標達成に向けた取組計画

### I 経営基盤の強化

#### ② 農業保険の加入促進

##### 【現状】

○台風や干ばつ等の気象災害で、さとうきび生産農家の経営安定を図るため、農業共済団体、市町村等関係機関と連携し、農業共済・収入保険制度の普及・啓発、加入促進を図っているが、近年、農業保険加入戸数の減少が続いている。また、農家には農業共済・収入保険制度に対する認識不足が見られるため、制度の理解促進が課題となっている。この状況を受け、OCR調査の機会やパンフレットを活用し、関係団体と連携しながら加入の促進と制度の普及啓発に取り組んでいる。

	H27 (28年産)	H28 (29年産)	H29 (30年産)	H30 (R元年産)	R元 (R2年産)	R2 (R3年産)	R3 (R4年産)	R4 (R5年産)	R5 (R6年産)	R6 (R7年産)
加入戸数(戸)	176	185	178	173	142	145	144	136	133	135
戸数引受率(%)	70.4	-	-	73.6	60.9	61.4	61.3	59.1	61.0	57.7
引受面積(ha)	188	226	206	235	192	199	221	215	194	218
面積引受率(%)	64.4	76.6	69.4	75.1	60.6	63.8	60.9	60.7	59.7	60.4

【課題】

○高齢者、小規模農家へ共済・収入保険制度を理解させる必要がある

【課題に対応した取組及びその実施者】

○収穫畑の聞き取り時に農家引き受けをする事で加入促進を図った（農業共済組合、多良間村、沖縄県）

【計画】

<短期計画> ※今年度か来年度頃に実施する予定の取組を記載

○共済制度・収入保険制度への理解を深めるため、収穫畑の聞き取りの際に農業保険を周知する。加えて、説明会を開催し周知の場を増やすことで、加入促進を図る

<中・長期的な計画> ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

○高齢者や小規模農家へ向け、パンフレットや各種説明会を活用して農業共済・収入保険制度への理解を深めることにより加入率の向上を図る

【自由記述欄】※例) 国補正事業（生産対策）のメニュー拡充のアイディア、要望等

—

## 目標達成に向けた取組計画

### 2 生産基盤の強化

#### ① 気象災害に強い生産基盤の整備

##### 【現状】

○台風被害が多発しやすい本村は、農業基盤整備事業等を活用することで農地防風林整備を進めている。それに比べて、干ばつ時の水源確保となる畑地かんがい施設の整備はほとんどが未整備となっている。近年は、7月から9月にかけて降雨量が少なく干ばつ傾向にあるため、安定した農業生産を確保するためには早期の水源確保及び干ばつ時の早期対策に移行できる体制の整備・構築が必要となっている。

	H27 実績	H28 実績	H29 実績	H30 実績	R元 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 見込	R6 見込
ほ場整備率	-	-	-	86.5	88.3	88.3	88.3	93.4	93.4	93.4
水源整備率	-	-	-	34.8	34.8	34.8	34.8	34.8	34.8	34.8
畑地かんがい整備率	-	-	-	10.5	10.5	10.5	10.5	10.5	10.5	10.5

【課題】

- 土地基盤整備は進んでいるが、畑地灌漑整備はほとんど未整備であり、ため池等の水源も少ない状況にある
- 干ばつ発生時に迅速な対応が出来る様に取組の早期実施が必要

【課題に対応した取組及びその実施者】

- 水源の整備、かんがい施設の整備、防風・防潮林の整備に取り組み、整備率向上を図った（多良間村、沖縄県）
- 他地区のように地下水やダムがない事からかん水で使う水源はため池のみとなっているため、村内の水源確保のため集水路の清掃及び整備を行い集水量の確保を図った（多良間村、沖縄県）

【計画】

<短期計画> ※今年度か来年度頃に実施する予定の取組を記載

- 貯水可能なため池周辺の集水路清掃による貯水率の上昇を図り水源を確保する
- 干ばつ時にはすぐに稼働できるよう事前の取組を早期に始められるよう調整を行う

<中・長期的な計画> ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

- 畑地灌漑整備事業を計画的に実施し、整備率を高める

【自由記述欄】※例) 国補正事業(生産対策)のメニュー拡充のアイデア、要望等

—

## 目標達成に向けた取組計画

### 2 生産基盤の強化

#### ② 機械化一貫体系の確立

##### 【現状】

○本村は、兼業率が高いことや高齢化による担い手不足により、第2期計画当初54%だったハーベスタ収穫率が令和6年実績では78%と大幅に増となっている。それに伴い収穫機械の老朽化により製糖時期での修繕が増加しているため、事業を活用して機能向上及び長寿命化を図りつつ、持続的生産強化対策事業等を活用して、新規ハーベスタ（中型以上）を導入するため、沖縄県に依頼して機械導入事業説明会を実施した。

○村内で作業受委託体制が未構築のため、新植や株出し管理作業等が適期に実施出来ていない事例がみられることから、現在、同地区内の宮古島市等を参考に体制づくりを検討している。

ハーベスタ稼働台数及び稼働状況

	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
稼働台数	6	7	8	8	8	8	8	8	8	8
収穫面積	176	204	219	220	241	208	262	261	249	283
収穫率(面積)	-	-	-	70.0	76.0	67.0	71.9	73.8	76.6	78.4

【課題】

- 収穫機械の老朽化による機能効率の低下
- 作業受委託体制が未構築であり新植や株出し管理作業が適期に行われていない事例が散見される

【課題に対応した取組及びその実施者】

- 収穫機械については老朽化が進んでいることから、事業の活用により機能向上及び長寿命化を図った（多良間村、JA、沖縄県）
- 受委託体制の構築に向け、関係機関と協議を行った（JA、多良間村、沖縄県、工場、ハーベスタ運営協議会）

【計画】

<短期計画> ※今年度か来年度頃に実施する予定の取組を記載

- GISシステムの導入により作付及び収穫状況を把握し、植付から収穫までの一括管理を推進する

<中・長期的な計画> ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

- 収穫機械の老朽化による収穫効率の低下を改善すべく、機能向上や新たな機械導入を推進する
- 含密糖の品質保持を図りながら地域の実態に即した植付け（ビレットプランタ等）、収穫機械化体系の確立を目指す
- 作業の省力化、効率化を図るためのスマート農業機械の導入及びスマート農業技術の普及を推進する

【自由記述欄】※例）国補正事業（生産対策）のメニュー拡充のアイデア、要望等

—

## 目標達成に向けた取組計画

### 2 生産基盤の強化

#### ③ 地力の増進

##### 【現状】

○本村は、製糖工場から排出されるトラッシュ（葉ガラ、バガス等）と畜産農家から排出される牛糞を村堆肥センターで堆肥化し、事業等を活用して農家負担の軽減を図りつつ畑地還元することで、島内での資源循環利用による土づくりを推進している。また、堆肥に加え、緑肥作物（クロタラリア・緑肥用ひまわり・緑豆）への購入補助を実施し、有機物投入による土づくりを推進し、地力の増進を図っている。上記取り組みは本村で取り組んでいるエコファーマーを推進する中で不可欠な取組であり、本取り組みを引き続き関係機関が連携して実施することで、島ごとエコファーマーへの取組の継続による持続的で環境に優しいさとうきび生産を推進していく必要がある。

○多良間村堆肥製造施設では、製糖工場及び畜産農家から原料の搬入を行い年間を通して堆肥を製造しているが、石や畜産資材の混入が多く製造途中での取り除きに時間を要していた。しかし、補助事業等を活用して機械の導入を行うことで生産性の向上及び質の向上が図られている。

【課題】

- 生産者の緑肥作物と堆肥を使った土づくりに対する理解不足
- 堆肥生産における作業効率及び品質の向上

【課題に対応した取組及びその実施者】

- 駐在普及員情報誌により、ほ場当たりの堆肥・緑肥の具体的な利用量を示し、活用を促進した（沖縄県、多良間村）
- 堆肥品質向上のため、ふるい機及び攪拌機を導入した（多良間村、沖縄県）
- 堆肥及び緑肥の購入助成（多良間村）

【計画】

<短期計画> ※今年度か来年度頃に実施する予定の取組を記載

- 島ごとエコファーマーの認定に伴い、継続的な環境負荷低減のための活動に準じた、堆肥・緑肥の投入量を働きかける

<中・長期的な計画> ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

- 堆肥センターの機能強化による堆肥の質の向上と増産により地力増進を図る

【自由記述欄】※例）国補正事業（生産対策）のメニュー拡充のアイデア、要望等

—

## 目標達成に向けた取組計画

### 3 技術対策

#### ① 病害虫防除

##### 【現状】

○本村では、アオドウガネ防除対策として令和3年度に村補助金を活用して20基の誘殺灯を導入し、所有する誘殺灯は全部で83基となったが、島内全域を網羅するには約160基の誘殺灯が必要となる。令和5年度に30基、令和6年度に50基を導入することで合計183基の所有となったが、耐用年数の経年劣化による故障や破損等で、現在の稼働可能台数は110基となっているため、令和7年度に補助事業を活用して50基を導入し、島内全域を網羅する160基での稼働が可能となる。

○令和4年度から発生が確認されている黒穂病対策として、感染株の引き抜き等の処理方法についてチラシを作成し、各戸へ配布して周知を行った。また、多良間村における作付け品種はNi27（黒穂病抵抗性が低い）が約7割を占めており、品種構成に大きな偏りがあることから、緊急対策事業で抵抗性品種のNiF8、Ni15、NiN24を令和4年12月に導入し、優良種苗事業の春植えてNi15、Ni28、RK10-29を導入し品種の分散を図った。

○令和6年度にメイチュウ予察トラップやほ場巡回時にメイチュウ類の発生が増加傾向であったため、関係機関と発生状況調査を行ったところ、注意報発令基準値を上回っていたことから、蔓延防止のため全農家への啓発と一斉防除（村単独費）を実施した（12月、3月）。

**【課題】**

- 黒穂病の早期防除対策に対する意識不足
- 各種農薬への適切な施用量・時期の認識不足により、メイチュウ類等の病虫害発生が増加傾向にある
- 農薬等の資材価格高騰

**【課題に対応した取組及びその実施者】**

- 関係機関による病虫害発生状況調査を行い、発生状況の早期把握により早期防除につなげた（沖縄県、多良間村、JA、工場）
- 黒穂病・メイチュウ類等の蔓延防止のため普及員情報誌を活用して農家への啓発を行った（沖縄県、多良間村）

**【計画】**

<短期計画> ※今年度か来年度頃に実施する予定の取組を記載

- 栽培講習会の実施及び普及員情報誌を活用し、病虫害防除対策を含めた基本的栽培技術の指導を強化する
- 各種事業を活用し、アオドウガネ誘殺灯の設置台数を維持する。

<中・長期的な計画> ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

- さとうきび優良種苗安定確保事業等を活用し、黒穂病抵抗性品種の普及による品種の分散を図る
- 各種事業を活用した雑草・病虫害防除費用の助成

**【自由記述欄】** ※例) 国補正事業（生産対策）のメニュー拡充のアイデア、要望等

- 誘殺灯の稼働可能台数を維持することで効果的にアオドウガネを防除するため、導入・更新可能な事業を要望する。

## 目標達成に向けた取組計画

### 3 技術対策

#### ② 台風・干ばつ対策

##### 【現状】

○本村は、基盤整備事業での農地防風林の設置や多面的機能支払交付金等を活用して防風林や防潮林の整備を行い、さとうきび等の農作物へ台風による塩害及び暴風等の自然災害から作物にかかる被害軽減を実施している。

○干ばつ時には、補助事業で導入した10基のかん水用10tタンクを利用して、決められた村内のため池より、農家から依頼を受けたかん水ほ場へ10台のダンプでかん水を実施している。しかし、ため池の老朽化が進むと、漏水による流出や集水路に蓄積された汚泥等による集水路の詰まりが原因となり、ため池への流入量の減少が懸念される。現在は、村単独予算によりため池の漏水箇所の修繕や多面的機能支払交付金を活用して、村内の地縁団体へ作業を依頼し、集水路の清掃を実施することで機能維持を図っている。

今後は、畑地灌漑設備事業の整備を進めていく必要がある。

【課題】

○台風や干ばつ等の自然災害に強い品種の普及

【課題に対応した取組及びその実施者】

○さとうきび優良種苗安定確保事業を活用した干ばつや台風への抵抗性品種の導入（多良間村、沖縄県）  
○干ばつ時におけるかん水費用の助成（多良間村、JA、工場、農業共済組合）

【計画】

<短期計画> ※今年度か来年度頃を実施する予定の取組を記載

○干ばつ対策会議の早期開催によるかん水等対策の早期実施  
○セーフティ基金事業活用による自然災害（台風・干ばつ）への対策

<中・長期的な計画> ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

○さとうきび優良種苗安定確保事業等を活用し、干ばつや台風への抵抗性品種の普及によるリスクの軽減を図る

【自由記述欄】※例）国補正事業（生産対策）のメニュー拡充のアイデア、要望等

—

目標達成に向けた取組計画

3 技術対策

③ 優良品種の選択・普及

【現状】

○多良間村における作付け品種はNi27が約7割を占めており、品種構成に大きな偏りがあり、それが原因の一つとして、近年、黒穂病が多発傾向にあり、大きな減産リスクを抱えている。その対策として、優良種苗事業を活用し、黒穂病抵抗性品種の導入と普及を図っている。

また、さとうきびの生産性向上を図るため、優良種苗事業を活用して黒穂病抵抗性、株出萌芽性、機械植付け・収穫適応性等、地域に適応した安定多収品種を導入するとともに、村内の各区と連携して原苗ほを設置し、健全無病な優良品種の増殖・普及に取り組んでいる。

多良間村における品種構成の変遷（収穫面積割合）

	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
Ni15	30.5	19.5	18.8	6.1	2.0	0.9	0.3	-	0.6	0.4
Ni21	1.7	1.0	0.6	-	0.5	1.5	0.5	0.3	0.6	0.7
Ni22	11.5	16.8	17.3	13.6	16.3	17.3	15.4	17.0	14.2	18.8
Ni27	47.8	55.6	52.1	56.7	63.6	72.3	76.6	77.5	79.7	76.4
Ni28	-	1.3	2.6	5.0	1.4	0.3	0.1	0.0	0.3	0.1
KY99-176	-	2.0	5.4	13.5	12.3	5.8	4.6	2.5	2.5	1.6
RK97-14	-	-	-	5.1	4.0	1.9	2.3	2.7	2.2	1.9
RK10-29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	8.5	3.7	3.2	-	-	-	0.2	-	-	0.1

【課題】

- 地域適応性品種の選定及び導入に対する理解不足による黒穂病の蔓延
- 健全無病苗に対するほ場の管理不足
- 品種の偏りや株出しの増による黒穂病の蔓延や自然災害等の被害を受けやすい状況にある

【課題に対応した取組及びその実施者】

- 各区長を集め、健全無病苗の配布前に説明会を開き、種苗事業に対する理解促進と優良種苗の普及に努めた（多良間村、沖縄県）

【計画】

<短期計画> ※今年度か来年度頃に実施する予定の取組を記載

- 品種に対する理解を共有するため、栽培講習会を適宜実施する
- 健全無病苗に対する説明会を実施し、優良種苗の有効活用を推進する

<中・長期的な計画> ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

- さとうきび優良種苗安定確保事業等を活用し、病虫害抵抗性品種の普及によるリスクの軽減を図る

【自由記述欄】※例) 国補正事業（生産対策）のメニュー拡充のアイデア要望 等

—

重点課題における関係者の役割分担と実施状況 ※令和7年度に3期目計画を立てる際は、右側の「今年度の具体的な取組計画」のみ記入。

重点項目：農地の利用集積、効率的なさとうきび経営の育成と労働力の確保

機関名	前年度の取組について			取組の反省点・改善すべき点	今年度の具体的な取組計画	
	具体的な取組内容	設定した目標	自己評価		具体的な取組内容	設定する目標
多良間村					・認定農業者及び新規就農者への講習会の開催及び申請支援	・認定農業者及び新規就農者育成
沖縄県					・認定農業者及び新規就農者への講習会の開催及び申請支援	・認定農業者及び新規就農者育成
JA					・認定農業者の指導及び支援	・認定農業者の育成
製糖工場					・認定農業者の指導及び支援	・認定農業者の育成
さとうきび生産組合					・認定農業者及び新規就農者への講習会の開催	・認定農業者及び新規就農者育成

重点項目：機械化一貫体系の確立

機関名	前年度の取組について			取組の反省点・改善すべき点	今年度の具体的な取組計画	
	具体的な取組内容	設定した目標	自己評価		具体的な取組内容	設定する目標
多良間村					・農業機械の新規導入及び長寿命化 ・受委託体制の構築検討	・農業機械の導入による省力化 ・受委託体制の構築
沖縄県					・農業機械の新規導入説明会 ・受委託体制の構築検討	・農業機械の新規導入支援 ・受委託体制の構築
JA					・受委託体制の構築に向けた検討会の実施	・受委託体制の構築
製糖工場					・受委託体制の構築に向けた検討会の実施	・受委託体制の構築
さとうきび生産組合					・受委託体制の構築に向けた検討会の実施	・受委託体制の構築

重点項目：優良品種の選択・普及

機関名	前年度の取組について			取組の反省点・改善すべき点	今年度の具体的な取組計画	
	具体的な取組内容	設定した目標	自己評価		具体的な取組内容	設定する目標
多良間村					・優良種苗安定確保事業の継続的な実施及び地域への普及	・品種構成の適正化 ・優良種苗の安定供給
沖縄県					・優良種苗の普及 ・地域適正品種の検討	・優良種苗の普及強化
JA					・栽培講習会の開催 ・優良種苗の普及・周知等	・優良種苗の普及強化
製糖工場					・地域適正品種の検討 ・優良種苗の普及・周知等	・地域適正品種の普及・周知
さとうきび生産組合					・栽培講習会の開催 ・採苗ほ設置及び周知、協力	・地域適正品種の増殖強化

さとうきび関係事業の活用実績（R7年度～）

【国補正事業（生産対策）】

事業年度	取組内容	計画額	うち補助金	実績額
R6補正・3次公募	地力増進対策（有機肥料の投入）、病虫害防除対策（誘殺灯の設置）	6,850,000	5,318,000	-

【セーフティネット事業】

事業年度	取組内容	計画額	うち補助金	実績額
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-

【実証・研究事業（国事業・県事業）】

事業年度	事業名	取組内容	総事業費	補助金	その他
-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-

【機械導入（国事業・県事業）】

事業年度	事業名	導入機械	総事業費	補助金	その他
-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-

【市町村単独事業】

事業年度	市町村名	事業名	取組内容	予算額	実績額
R7年度	多良間村	さとうきび共済加入推進補助金	10aあたり1,000円の補助	-	-
R7年度	多良間村	ハーベスター利用補助金	1tあたり1,000円の補助	-	-
R7年度	多良間村	手刈り補助金	1tあたり1,000円の補助	-	-
R7年度	多良間村	集中脱葉施設助成金	1tあたり250円の補助	-	-
R7年度	多良間村	さとうきび一斉防除	農薬購入額の60%以内の補助	-	-
R7年度	多良間村	堆肥購入補助金	1tあたり2,300円の補助	-	-

(参考情報①)

1. 県(島)の概況、農業・さとうきび作の位置づけ等

多良間島は、那覇市から南西に約350Km離れ、宮古島と石垣島のほぼ中間に位置する直径約5Km、面積1,973haで平坦円形の島で、土壌は島尻マージで土層は浅く保水力に乏しい。気候は、亜熱帯性で一年を通して暖かく年平均気温24℃で、年間の降水量は約2,000mmと降水には恵まれているが、季節によって降水量はむらが生じている。産業構造は、さとうきび、葉たばこ、肉用牛が主要な営農体系となっているが、近年では唐辛子やにんにく、かんしょ等の普及も進めている。さとうきびと輪作体制を作ることで土壌改善を図ると共に、農家所得の向上を目指している。また、島ごとエコファーマーの取組を推進しており、減化学肥料・農薬、有機物質投入による土づくりを通し、環境に配慮したさとうきび生産を行っている

2. さとうきび生産の現状

生産の現状	さとうきびは、本村の基幹作物として耕地面積の約半数で栽培されている。近年の収穫面積は約300haとなり増加傾向となっている。生産量は台風や干ばつの影響等により変動が大きい。作型は、夏植栽培が減少傾向であり、株出栽培が増加傾向となっているため、計画的な植付更新が求められている。さとうきび農家については、年々減少傾向及び高齢化が進展しているため、担い手を中心に農地の集積や機械化一貫体系による作業受委託体制の構築が急務となっている。
-------	---

【近年の作物別作付面積の動向】

(1) 作物別作付け面積の動向

単位：ha

(2) さとうきびの収穫面積、単収、生産量、糖度の推移

	耕地面積	作付面積	耕作放棄地	さとうきび	かんしょ	水稻	野菜	飼料作物	その他	収穫面積 (ha)				単収 (t/10a)				生産量 (t)				糖度	
										夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計		
H17	954	-	-	287	-	-	-	-	-	H17	280	2	5	287	8.4	3.0	5.0	8.3	23,558	59	250	23,867	14.5
H18	953	-	-	270	-	-	-	-	-	H18	265	5	0	270	8.5	4.8	0.0	8.5	22,592	240	0	22,832	15.5
H19	962	-	-	270	-	-	3.5	-	-	H19	260	5	5	270	10.3	3.3	8.5	10.2	26,896	167	423	27,486	14.2
H20	964	-	-	285	-	-	6.2	-	-	H20	275	0	10	285	8.5	0.0	5.0	8.4	23,463	0	500	23,963	15.6
H21	964	-	-	284	-	-	6.5	-	-	H21	272	0	12	284	9.6	0.0	4.5	9.4	26,215	0	540	26,755	14.9
H22	984	-	-	297	-	-	5.8	-	-	H22	251	6	40	297	8.8	1.0	4.4	7.0	22,080	62	1,750	23,892	13.2
H23	983	-	-	296	-	-	6.7	-	-	H23	256	10	30	296	5.2	0.2	4.5	5.0	13,420	21	1,338	14,779	13.7
H24	983	-	-	298	-	-	4.7	-	-	H24	260	0	38	298	7.3	0.0	6.5	7.2	19,027	0	2,457	21,484	14.9
H25	983	-	-	309	-	-	3.5	-	-	H25	239	0	70	309	8.0	0.0	2.9	6.9	19,180	0	2,041	21,221	13.7
H26	983	-	-	292	-	-	3.1	-	-	H26	225	0	67	292	8.2	0.0	3.7	7.2	17,430	0	2,509	19,939	14.8
H27	983	-	-	295	-	-	-	-	-	H27	236	0	59	295	7.5	0.0	3.9	6.7	17,627	0	2,283	19,910	12.9
H28	983	-	-	297	-	-	-	-	-	H28	242	0	55	297	9.5	0.0	4.6	8.6	22,984	0	2,548	25,532	14.4
H29	983	-	-	313	-	-	-	-	-	H29	244	0	69	313	8.8	0.0	5.6	7.3	21,496	0	3,913	25,409	13.5
H30	983	-	-	312	-	-	-	-	-	H30	211	0	101	312	8.9	0.0	5.9	7.9	18,951	0	6,005	24,956	14.2
R元	983	-	-	317	-	-	-	-	-	R元	207	0	110	317	7.0	0.0	4.0	6.1	14,653	0	4,434	19,087	15.2
R2	983	-	-	312	-	-	-	-	-	R2	202	0	110	312	9.8	0.0	6.1	8.5	19,713	0	6,707	26,420	15.3
R3	988	-	-	363	-	-	-	-	-	R3	219	0	144	363	10.2	0.0	7.2	8.9	22,288	0	10,409	32,697	15.8
R4	988	-	-	354	-	-	-	-	-	R4	183	0	171	354	7.7	0.0	4.0	5.9	14,179	0	6,992	21,171	14.3
R5	988	-	-	325	-	-	-	-	-	R5	180	0	145	325	6.8	0.0	5.0	6.0	12,285	0	7,350	19,635	15.3
R6	988	-	-	361	-	-	-	-	-	R6	232	7	121	360	9.3	5.2	6.1	8.1	21,637	376	7,360	29,373	14.9

(参考情報②)

【年齢階層別農家戸数】

	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	合計
H17	—	—	—	—	—	—	0
H18	—	—	—	—	—	—	0
H19	11	22	61	55	91	—	240
H20	6	20	59	55	86	—	226
H21	2	12	26	33	50	—	123
H22	1	3	14	21	33	—	72
H23	1	5	18	29	61	—	114
H24	3	19	40	79	125	—	266
H25	2	16	35	75	127	—	255
H26	1	12	28	63	124	—	228
H27	2	12	29	69	128	—	240
H28	2	11	30	75	131	—	249
H29	3	11	31	81	134	—	260
H30	3	10	31	87	137	—	268
R元	3	7	24	51	148	—	233
R2	1	7	19	62	147	—	236
R3	0	2	23	38	172	—	235
R4	1	9	21	52	147	—	230
R5	2	6	20	40	150	—	218
R6	0	10	17	53	154	—	234

【経営（収穫）規模別農家戸数】

	100a未満	100～300a 未満	300～500a 未満	500a以上	合計
H17	149	107	9	1	266
H18	132	125	5	1	263
H19	130	114	5	—	249
H20	162	90	9	—	261
H21	133	121	6	1	261
H22	149	102	8	2	261
H23	211	36	—	—	247
H24	156	110	3	—	269
H25	119	126	8	2	255
H26	135	107	21	2	265
H27	136	98	5	—	239
H28	103	124	9	3	239
H29	102	122	9	3	236
H30	102	121	9	3	235
R元	102	118	9	4	233
R2	102	118	13	3	236
R3	112	100	20	3	235
R4	92	106	25	7	230
R5	82	116	17	3	218
R6	92	116	20	6	234

【製糖工場の操業状況】

	操業率 (%)	操業期間 (日)	歩留 (%)	トラッシュ率 (%)
H17	95.47	99	14.08	8.54
H18	91.33	99	14.79	9.65
H19	109.94	120	13.21	10.34
H20	95.85	106	14.8	10.8
H21	107.02	119	13.58	11.29
H22	95.57	106	12.4	10.76
H23	59.12	73	13.17	12.5
H24	85.94	99	14.28	11.75
H25	84.89	100	13.15	11.76
H26	83.76	98	13.76	12.44
H27	82.73	119	11.66	12.71
H28	101.59	112	13.94	12.46
H29	101.64	118	12.53	12.55
H30	99.82	136	12.63	12.92
R元	76.34	92	13.26	12.91
R2	88.81	119	13.37	12.17
R3	154.16	185	9.76	12.77
R4	91.58	107	13.22	12.97
R5	86.11	108	14.48	12.54
R6	98.05	154	13.92	13.51

(参考情報③)

【作業受託組織の状況】

	農作業受託組織数			農作業受託調整組織の有無と役割		
	合計	組織	個人	有無	名称	役割
R7	2	2		有	ハーベスタ運営協議会	収穫作業委託窓口及び委託料の収受業務

【作業委託料金】

作業名	料金	料金の設定方法及び島内の料金体系	備考
収穫	約4,850円/ト	機械刈料(4,550円/ト)、前処理料(1,300円/ト)、村補助金(1,000円/ト)	受委託組織が未整備のため数人の個人事業者及び生産法人への聞き取り内容
植付	18,000円～	全茎植付機(15,000～18,000円/10a) ビレットプランタ(27,000円/10a～)	
株出管理	3,500円～	-	
防除	0	現在作業受託なし	
その他	4,000円～	耕起及び碎土等の用途により変動あり	

(参考情報④)

【畑地かんがいの整備状況】

	貯水施設		畑地かんがい 整備率	かん水方法			畑地かんがい整備の現状と 整備率向上に向けた今後の取組
				形態	使用料金	使用条件等	
R7	地下ダム	-	-	-	-	-	-
	ダム	-	-	-	-	-	-
	ため池	塩川高穴地区	10.5%	Ⅱ型	なし (現時点)	なし (現時点)	高穴地区に二型は畑かんが整備されているが、故障等が多いため使用者は少ない。R8年度から国営事業着手予定となっているため整備率は事業の進捗により上がる見込み。
	その他	-	-	-	-	-	-

(参考情報⑤)

【共済加入目標】

	H26	R6	R7	R8	R9	R12	R17
有資格戸数	265	216	216	216	216	216	-
加入戸数	176	135	137	139	141	148	-
戸数引受率	66.4%	62.5%	63.5%	64.5%	65.5%	68.5%	-
対象面積(ha)	292	325	325	325	325	325	-
引受面積(ha)	189	219	222	226	229	239	-
面積引受率	64.6%	67.4%	68.4%	69.4%	70.4%	73.4%	-
支払金額(千円)	5,494	-	-	-	-	-	-

【収入保険制度への加入目標】

	H30	R6	R7	R8	R9	R12	R17
有資格戸数	233	216	216	216	216	216	-
加入戸数	1	0	5	5	5	6	-
引受面積(ha)	1.4	0	35.8	35.8	36.4	39.0	-
面積加入率	0.4%	0%	11.0%	11.0%	11.2%	12%	-

(参考情報⑥)

【作型別割合】

	夏植	春植	株出し
H17	97.6%	0.7%	1.7%
H18	98.1%	1.9%	0.0%
H19	96.3%	1.9%	1.9%
H20	96.5%	0.0%	3.5%
H21	95.8%	0.0%	4.2%
H22	84.5%	2.0%	13.5%
H23	86.5%	3.4%	10.1%
H24	87.2%	0.0%	12.8%
H25	77.3%	0.0%	22.7%
H26	77.1%	0.0%	22.9%
H27	80.0%	0.0%	20.0%
H28	81.5%	0.0%	18.5%
H29	78.0%	0.0%	22.0%
H30	67.6%	0.0%	32.4%
R元	65.3%	0.0%	34.7%
R2	64.7%	0.0%	35.3%
R3	60.3%	0.0%	39.7%
R4	51.7%	0.0%	48.3%
R5	55.4%	0.0%	44.6%
R6	64.4%	1.9%	33.6%
R17(目標)	48.3%	10.9%	40.8%

【株出し回数別面積】

	株出し回数別面積 (ha)							平均回数
	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	
H17	0	0	0	0	0	0	0	
H18	0	0	0	0	0	0	0	
H19	0	0	0	0	0	0	0	
H20	0	0	0	0	0	0	0	
H21	0	0	0	0	0	0	0	
H22	0	0	0	0	0	0	0	
H23	0	0	0	0	0	0	0	
H24	0	0	0	0	0	0	0	
H25	70	0	0	0	0	0	0	1.00
H26	67	0	0	0	0	0	0	1.00
H27	59	0	0	0	0	0	0	1.00
H28	55	0	0	0	0	0	0	1.00
H29	69	0	0	0	0	0	0	1.00
H30	101	0	0	0	0	0	0	1.00
R元	110	0	0	0	0	0	0	1.00
R2	110	0	0	0	0	0	0	1.00
R3	127	9.2	8	0.3	0	0	0	1.18
R4	164	6	1.8	0	0	0	0	1.06
R5	145	0	0	0	0	0	0	1.00
R6	121	0	0	0	0	0	0	1.00
R17	135	0	0	0	0	0	0	1.00

(参考情報⑦)

【近年の品種別収穫面積の推移】

作型	夏植						春植						株出						合計					
	Ni27	Ni22	Ni15	宮古1号	Ni21	その他	Ni27	Ni22	Ni15	宮古1号	Ni21	その他	Ni27	Ni22	Ni15	宮古1号	Ni21	その他	Ni27	Ni22	Ni15	宮古1号	Ni21	その他
H17	0	0	268	0	0	12	0	0	2	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	275	0	0	12
H18	0	0	253	8	0	4	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	258	8	0	4
H19	0	0	195	61	0	4	0	0	5	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	205	61	0	4
H20	0	0	239	36	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	245	40	0	0
H21	0	0	244	21	0	7	0	0	8	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	252	25	0	7
H22	0	0	206	38	0	7	0	0	4	1	0	1	0	0	17	19	0	5	0	0	227	58	0	13
H23	0	0	194	44	0	18	0	0	7	1	0	2	0	0	16	9	0	5	0	0	217	54	0	25
H24	0	12	187	47	1	13	0	0	0	0	0	0	0	4	18	14	0	2	0	16	205	61	1	15
H25	45	23	127	35	12	0	0	0	0	0	0	0	10	7	33	19	1	0	55	30	160	54	13	0
H26	80	25	97	17	6	0	0	0	0	0	0	0	19	11	21	12	4	0	99	36	118	29	10	0
H27	110	25	77	20	4	0	0	0	0	0	0	0	31	9	13	5	1	0	141	34	90	25	5	0
H28	132	43	50	7	2	8	0	0	0	0	0	0	33	7	8	4	1	2	165	50	58	11	3	10
H29	130	45	51	7	1	10	0	0	0	0	0	0	33	9	8	3	1	15	163	54	59	10	2	25
H30	111	30	13	0	0	56	0	0	0	0	0	0	66	12	6	0	0	18	177	42	19	0	0	74
R元	127	35	4	0	1	39	0	0	0	0	0	0	74	16	2	0	1	16	201	51	6	0	2	55
R2	142	36	1	3	0	19	0	0	0	0	0	0	84	17	1	0	2	6	226	53	2	3	2	25
R3	164	35	1	1	2	18	0	0	0	0	0	0	115	21	0	0	0	9	279	56	1	1	2	27
R4	135	37	0	0	1	10	0	0	0	0	0	0	139	23	0	0	0	8	274	60	0	0	1	18
R5	142	26	2	0	1	8	0	0	0	0	0	0	117	20	0	0	1	7	259	46	2	0	2	15
R6	169	51	1	0	2	9	6	0	0	0	0	1	101	16	0	0	0	4	275	68	1.3	0	2.4	14